

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	2027年3月17日まで（2017年7月24日設定）	
運用方針	米国国債7-10年ラダーマザーファンド受益証券への投資を通じて、主として米国の国債に投資を行います。 マザーファンド受益証券の組入比率は高位を維持することを基本とします。 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減をはかります。	
主要運用対象	ベビーフンド	米国国債7-10年ラダーマザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	マザーファンド	米国の国債を主要投資対象とします。
主な組入制限	ベビーフンド	外貨建資産への実質投資割合に制限を設けません。
	マザーファンド	外貨建資産への投資割合に制限を設けません。
分配方針	<p>分配対象額は、経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>分配金額の決定にあたっては、信託財産の成長を優先し、原則として分配を抑制する方針とします。（基準価額水準や市況動向等により変更する場合があります。）</p> </div>	

※当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。

運用報告書（全体版）

米国国債7-10年ラダーファンド （為替ヘッジあり） （ラップ向け）

第1期（決算日：2018年3月19日）

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、お手持ちの「米国国債7-10年ラダーファンド（為替ヘッジあり）（ラップ向け）」は、去る3月19日に第1期の決算を行いました。ここに謹んで運用状況をご報告申し上げます。
今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。



三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
ホームページ <https://www.am.mufg.jp/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客様専用
フリーダイヤル **0120-151034**
（受付時間：営業日の9:00～17:00、
土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く）

お客様の取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

本資料の表記にあたって

- ・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。
- ・一印は組入れまたは売買がないことを示しています。

○設定以来の運用実績

決算期	基準 (分配落)	基準価額			債 組 入 比 率	債 先 物 比 率	純 資 産 額
		税 分 配	み 金 騰 落	中 率			
(設定日)	円			%	%	百万円	
2017年7月24日	10,000	—	—	—	—	10	
1期(2018年3月19日)	9,557	0	△4.4	93.0	—	703	

(注) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注) 当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しております。

(注) 「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

(注) 設定日の純資産総額は、設定元本を表示しております。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額	騰 落 率	債 組 入 比 率	債 先 物 比 率	券 率
(設定日)	円	%	%	%	%
2017年7月24日	10,000	—	—	—	—
7月末	9,963	△0.4	93.3	—	—
8月末	10,073	0.7	95.0	—	—
9月末	9,955	△0.5	84.9	—	—
10月末	9,908	△0.9	96.7	—	—
11月末	9,896	△1.0	93.8	—	—
12月末	9,853	△1.5	94.3	—	—
2018年1月末	9,643	△3.6	90.4	—	—
2月末	9,518	△4.8	92.1	—	—
(期 末)					
2018年3月19日	9,557	△4.4	93.0	—	—

(注) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注) 騰落率は設定日比。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しております。

(注) 「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

運用経過

当期中の基準価額等の推移について

（第1期：2017/7/24～2018/3/19）

基準価額の動き

基準価額は設定時に比べ4.4%の下落となりました。



・分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。



実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

基準価額の主な変動要因

上昇要因	債券の利子収益を享受したことなどが、基準価額の上昇要因となりました。
下落要因	米国長期金利が上昇したことなどが、基準価額の下落要因となりました。

投資環境について

（第1期：2017/7/24～2018/3/19）

金利の推移



（注）現地日付ベースで記載しております。

◎債券市況

- ・米国長期金利は上昇しました。
- ・設定時から2017年9月上旬にかけては北朝鮮情勢に対する懸念などから米国長期金利は低下基調で推移しましたが、その後10月下旬にかけては、9月に開催された米連邦公開市場委員会（FOMC）にて年内の利上げ見通しが維持されたことなどをを受けて米国長期金利は上昇に転じました。11月から12月中旬にかけては米国長期金利は概ねもみ合いで推移しましたが、その後米国の税制改正の成立を背景とした景気拡大期待に加えて、米ドル安や原油価格上昇などに伴う市場のインフレ期待の高まりなどから、米国長期金利は一段と上昇しました。

当該投資信託のポートフォリオについて

i 期間中にどのような運用をしたかを確認できます。

＜米国公債 7-10年ラダーファンド（為替ヘッジあり）（ラップ向け）＞

- ・ 主要投資対象である米国公債 7-10年ラダーマザーファンド受益証券への投資を通じて、主として米国の国債を組み入れた運用を行いました。
- ・ 米ドルに対する為替変動リスクに関しては、為替ヘッジを行ったため、円・米ドル為替市況の変動が基準価額に与える影響は限定的となりました。

＜米国公債 7-10年ラダーマザーファンド＞

基準価額は設定時に比べ7.5%の下落となりました。

- ・ 残存期間が7年程度から10年程度までの米国公債を主要投資対象とし、これらの債券の各残存期間ごとの投資金額が同額程度になるような運用を行いました。
- ・ 前記の運用を行った結果、債券の利子収益を享受したことなどがプラスに寄与したものの、米ドルが対円で下落したことや米国長期金利が上昇したことなどがマイナスに影響し、基準価額は下落しました。

（ご参考）

利回り・デュレーション（平均回収期間や金利感応度）

期末（2018年3月19日）

最終利回り	2.8%
直接利回り	2.1%
デュレーション	7.5年

- ・ 数値は債券現物部分で計算しております。
- ・ 最終利回りとは、個別債券等について満期まで保有した場合の複利利回りを加重平均したものです。
- ・ 直接利回りとは、個別債券等についての表面利率を加重平均したものです。
- ・ 利回りは、計算日時点の評価にもとづくものであり、売却や償還による差損益等を考慮した後のファンドの「期待利回り」を示すものではありません。
- ・ デュレーションは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ金利の変化に対する債券価格の変動率を示します。
- ・ デュレーション調整のため、債券先物を組み入れることがあります。この場合、デュレーションについては債券先物を含めて計算しています。

当該投資信託のベンチマークとの差異について

- ・当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。
- ・従って、ベンチマークおよび参考指数との対比は表記できません。

分配金について

i 分配金の内訳および翌期繰越分配対象額（翌期に繰越す分配原資）がどの程度あるかを確認できます。

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額的水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

【分配原資の内訳】 (単位：円、1万口当たり、税込み)

項目	第1期
	2017年7月24日～2018年3月19日
当期分配金	—
（対基準価額比率）	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	159

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針（作成対象期間末での見解です。）

<米国国債7-10年ラダーファンド（為替ヘッジあり）（ラップ向け）>

◎今後の運用方針

- ・米国国債7-10年ラダーマザーファンド受益証券の組入比率を高位（概ね90%以上）とする方針です。
- ・実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ります。

<米国国債7-10年ラダーマザーファンド>

◎運用環境の見通し

- ・米国長期金利は、高値圏でもみ合いの展開を想定します。FOMCは、米経済は力強さを増したと位置づけており、更なる金融緩和解除を指向していることから、中短期ゾーン主導で金利は上昇し易い一方で、利上げペース加速に伴う先行きの景気減速懸念も予想されるため、長期金利はもみ合う展開を見込みます。

◎今後の運用方針

- ・米国国債を主要投資対象とし、原則として、残存期間が7年程度から10年程度までの米国国債に投資し、各残存期間ごとの投資金額が同程度になるような運用を目指します。

○1万口当たりの費用明細

(2017年7月24日～2018年3月19日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円	%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率× (期中の日数÷年間日数)
(投 信 会 社)	(21)	(0.212)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(3)	(0.035)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(2)	(0.021)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) そ の 他 費 用	1	0.013	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(1)	(0.008)	有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用
(監 査 費 用)	(0)	(0.003)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
(そ の 他)	(0)	(0.002)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合 計	27	0.282	
期中の平均基準価額は、9,851円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2017年7月24日～2018年3月19日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
米国公債7-10年ラダーマザーファンド	千口 3,630,061	千円 3,654,394	千口 2,901,704	千円 2,810,440

○利害関係人との取引状況等

（2017年7月24日～2018年3月19日）

利害関係人との取引状況

<米国国債7-10年ラダーファンド（為替ヘッジあり）（ラップ向け）>

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B		売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	
			$\frac{B}{A}$			$\frac{D}{C}$
為替先物取引	百万円 10,275	百万円 1,426	% 13.9	百万円 11,022	百万円 2,371	% 21.5

<米国国債7-10年ラダーマザーファンド>

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B		売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	
			$\frac{B}{A}$			$\frac{D}{C}$
為替直物取引	百万円 6,637	百万円 1,913	% 28.8	百万円 4,213	百万円 392	% 9.3

平均保有割合 12.5%

※平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当該ベビーファンドの親投資信託所有口数の割合。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱東京UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行です。

○自社による当ファンドの設定・解約状況

（2017年7月24日～2018年3月19日）

設定時残高(元本)	当期設定元本	当期解約元本	期末残高(元本)	取引の理由
百万円 10	百万円 -	百万円 10	百万円 -	当初設定時における取得とその処分

○組入資産の明細

（2018年3月19日現在）

親投資信託残高

銘	柄	当 期 末	
		口 数	評 価 額
米国国債7-10年ラダーマザーファンド		千口 728,357	千円 673,876

マザーファンドの組入資産の明細につきましては、マザーファンド頁をご参照ください。

○投資信託財産の構成

(2018年3月19日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
米国国債7-10年ラダーマザーファンド	千円 673,876	% 95.2
コール・ローン等、その他	33,700	4.8
投資信託財産総額	707,576	100.0

(注) 米国国債7-10年ラダーマザーファンドにおいて、期末における外貨建純資産（7,287,016千円）の投資信託財産総額（7,326,868千円）に対する比率は99.5%です。

(注) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、期末における邦貨換算レートは以下の通りです。

1 アメリカドル=105.93円			
------------------	--	--	--

○資産、負債、元本及び基準価額の状況（2018年3月19日現在）

項目	当期末
	円
(A) 資産	1,369,571,291
コール・ローン等	33,496,462
米国公債7-10年ラダーマザーファンド(評価額)	673,876,569
未収入金	662,198,260
(B) 負債	665,583,351
未払金	661,995,000
未払信託報酬	3,554,677
未払利息	65
その他未払費用	33,609
(C) 純資産総額(A-B)	703,987,940
元本	736,583,089
次期繰越損益金	△ 32,595,149
(D) 受益権総口数	736,583,089口
1万口当たり基準価額(C/D)	9,557円

<注記事項>

- ①設定元本額 10,000,000円
 期中追加設定元本額 3,886,275,798円
 期中一部解約元本額 3,159,692,709円
 また、1口当たり純資産額は、期末0.9557円です。

②純資産総額が元本額を下回っており、その差額は32,595,149円です。

③分配金の計算過程

項目	2017年7月24日～ 2018年3月19日
費用控除後の配当等収益額	6,378,861円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	－円
収益調整金額	5,404,483円
分配準備積立金額	－円
当ファンドの分配対象収益額	11,783,344円
1万口当たり収益分配対象額	159円
1万口当たり分配金額	－円
収益分配金金額	－円

○損益の状況（2017年7月24日～2018年3月19日）

項目	当期
	円
(A) 配当等収益	△ 4,326
受取利息	25
支払利息	△ 4,351
(B) 有価証券売買損益	△ 21,823,835
売買益	194,396,795
売買損	△216,220,630
(C) 信託報酬等	△ 3,609,886
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 25,438,047
(E) 追加信託差損益金	△ 7,157,102
(配当等相当額)	(△ 3,555)
(売買損益相当額)	(△ 7,153,547)
(F) 計(D+E)	△ 32,595,149
(G) 収益分配金	0
次期繰越損益金(F+G)	△ 32,595,149
追加信託差損益金	△ 7,157,102
(配当等相当額)	(5,404,483)
(売買損益相当額)	(△ 12,561,585)
分配準備積立金	6,378,861
繰越損益金	△ 31,816,908

- (注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
 (注) (C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
 (注) (E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

*三菱UFJ国際投信では本資料のほか、当ファンドに関する情報等の開示を行っている場合があります。詳しくは、取り扱い販売会社にお問い合わせいただくか、当社ホームページ (<https://www.am.mufg.jp/>) をご覧ください。

【お 知 ら せ】

- ①当社ホームページアドレス変更に伴う記載変更を行うため電子公告のアドレスを変更し、信託約款に所要の変更を行いました。
(変更前(旧) <http://www.am.mufg.jp/> → 変更後(新) <https://www.am.mufg.jp/>)
(2018年1月1日)
- ②2014年1月1日から、2037年12月31日までの間、普通分配金並びに解約時又は償還時の差益に対し、所得税15%に2.1%の率を乗じた復興特別所得税が付加され、20.315% (所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5% (法人受益者は15.315%の源泉徴収が行われます。)) の税率が適用されます。

米国国債7-10年ラダーマザーファンド

《第4期》決算日2018年3月19日

[計算期間：2017年9月20日～2018年3月19日]

「米国国債7-10年ラダーマザーファンド」は、3月19日に第4期の決算を行いました。
以下、法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第4期の運用状況をご報告申し上げます。

運 用 方 針	主として米国の国債に投資を行います。 原則として、残存期間が7年程度から10年程度までの米国国債に投資し、各残存期間ごとの投資金額が同額程度になるような運用をめざします。 組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。
主 要 運 用 対 象	米国の国債を主要投資対象とします。
主 な 組 入 制 限	外貨建資産への投資割合に制限を設けません。

○設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額		債 組 入 比 率	債 先 物 比 率	純 資 産 額
	期 騰 落	中 率			
(設定日)	円	%	%	%	百万円
2016年3月18日	10,000	—	—	—	5,917
1期(2016年9月20日)	9,380	△6.2	96.0	—	5,703
2期(2017年3月17日)	9,920	5.8	97.3	—	5,551
3期(2017年9月19日)	10,088	1.7	96.9	—	7,531
4期(2018年3月19日)	9,252	△8.3	97.2	—	7,326

(注) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注) 当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

(注) 「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

(注) 設定日の純資産総額は、設定元本を表示しております。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額 騰 落 率	債 組 入 比 率	債 先 物 比 率	券 率
(期 首) 2017年9月19日	円 10,088	—	96.9	% —
9月末	10,154	0.7	87.8	—
10月末	10,165	0.8	97.5	—
11月末	10,066	△0.2	97.2	—
12月末	10,121	0.3	97.4	—
2018年1月末	9,554	△5.3	95.5	—
2月末	9,318	△7.6	95.7	—
(期 末) 2018年3月19日	9,252	△8.3	97.2	—

(注) 騰落率は期首比。

(注) 「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

○運用経過

●当期中の基準価額等の推移について

◎基準価額の動き

基準価額は期首に比べ8.3%の下落となりました。

基準価額等の推移



●投資環境について

◎債券市況

- ・米国長期金利は上昇しました。
- ・期首から2017年10月下旬にかけては、9月に開催された米連邦公開市場委員会（FOMC）にて年内の利上げ見通しが維持されたことなどを受けて米国長期金利は上昇しました。11月から12月中旬にかけては米国長期金利は概ねもみ合いで推移しましたが、その後米国の税制改正の成立を背景とした景気拡大期待に加えて、米ドル安や原油価格上昇などに伴う市場のインフレ期待の高まりなどから、米国長期金利は上昇しました。

◎為替市況

- ・米ドルは対円で下落しました。期首から2017年10月下旬にかけては、米国と本邦の金利差が拡大したことなどから米ドルは対円で上昇基調で推移しました。その後期末にかけては、日欧を含むグローバルな金融正常化観測などから米ドルは対円で下落基調に転じ、期を通じてみると米ドルは対円で下落して終わりました。

●当該投資信託のポートフォリオについて

- ・残存期間が7年程度から10年程度までの米回国債を主要投資対象とし、これらの債券の各残存期間ごとの投資金額が同額程度になるような運用を行いました。
- ・前記の運用を行った結果、債券の利子収益を享受したなどがプラスに寄与したものの、米ドルが対円で下落したことや米国長期金利が上昇したことなどがマイナスに影響し、基準価額は下落しました。

○今後の運用方針

◎運用環境の見通し

- ・米国長期金利は、高値圏でもみ合いの展開を想定します。FOMCは、米経済は力強さを増したと位置づけており、更なる金融緩和解除を指向していることから、中短期ゾーン主導で金利は上昇し易い一方で、利上げペース加速に伴う先行きの景気減速懸念も予想されるため、長期金利はもみ合う展開を見込みます。

◎今後の運用方針

- ・米回国債を主要投資対象とし、原則として、残存期間が7年程度から10年程度までの米回国債に投資し、各残存期間ごとの投資金額が同程度になるような運用を目指します。

○1万口当たりの費用明細

(2017年9月20日～2018年3月19日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) そ の 他 費 用	円	%	(a)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	1	0.006	有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用
(そ の 他)	(1)	(0.006)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合 計	(0)	(0.000)	
期中の平均基準価額は、9,896円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2017年9月20日～2018年3月19日)

公社債

			買 付 額	売 付 額
外 国	アメリカ	国債証券	千アメリカドル 53,957	千アメリカドル 48,462

(注) 金額は受渡代金。(経過利子分は含まれておりません。)

○利害関係人との取引状況等

(2017年9月20日～2018年3月19日)

利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A			売付額等 C		
	うち利害関係人 との取引状況B	B A	%	うち利害関係人 との取引状況D	D C	%
為替直物取引	百万円 4,723	百万円 —	% —	百万円 4,094	百万円 342	% 8.4

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱東京UFJ銀行です。

○組入資産の明細

(2018年3月19日現在)

外国公社債

(A) 外国(外貨建)公社債 種類別開示

区 分	当 期 末							
	額面金額	評 価 額		組入比率	うちBB格以下 組入比率	残存期間別組入比率		
		外貨建金額	邦貨換算金額			5年以上	2年以上	2年未満
	千アメリカドル	千アメリカドル	千円	%	%	%	%	%
アメリカ	71,200	67,203	7,118,819	97.2	—	97.2	—	—
合 計	71,200	67,203	7,118,819	97.2	—	97.2	—	—

(注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(B) 外国(外貨建)公社債 銘柄別開示

銘 柄	当 期 末					
	利 率	額面金額	評 価 額		償還年月日	
			外貨建金額	邦貨換算金額		
アメリカ	%	千アメリカドル	千アメリカドル	千円		
国債証券	1.5	6,100	5,490	581,555	2026/8/15	
	1.625	6,100	5,581	591,298	2026/2/15	
	1.625	6,100	5,563	589,329	2026/5/15	
	2.0	5,900	5,582	591,393	2025/8/15	
	2.0	6,000	5,610	594,316	2026/11/15	
	2.125	5,800	5,548	587,754	2025/5/15	
	2.25	5,800	5,573	590,442	2025/11/15	
	2.25	5,900	5,619	595,300	2027/2/15	
	2.25	5,900	5,605	593,786	2027/8/15	
	2.25	5,900	5,598	593,005	2027/11/15	
	2.375	5,800	5,578	590,922	2027/5/15	
	2.75	5,900	5,850	619,713	2028/2/15	
合 計				7,118,819		

(注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

○投資信託財産の構成

(2018年3月19日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
公社債	千円 7,118,819	% 97.2
コール・ローン等、その他	208,049	2.8
投資信託財産総額	7,326,868	100.0

(注) 期末における外貨建純資産(7,287,016千円)の投資信託財産総額(7,326,868千円)に対する比率は99.5%です。

(注) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、期末における邦貨換算レートは以下の通りです。

1 アメリカドル=105.93円		
------------------	--	--

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2018年3月19日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	7,326,868,725
コール・ローン等	174,439,544
公社債(評価額)	7,118,819,565
未収利息	31,081,780
前払費用	2,527,836
(B) 負債	77
未払利息	77
(C) 純資産総額(A-B)	7,326,868,648
元本	7,919,288,410
次期繰越損益金	△ 592,419,762
(D) 受益権総口数	7,919,288,410口
1万口当たり基準価額(C/D)	9,252円

<注記事項>

- ①期首元本額 7,465,766,952円
 期中追加設定元本額 4,827,563,620円
 期中一部解約元本額 4,374,042,162円
 また、1口当たり純資産額は、期末0.9252円です。

②期末における元本の内訳(当親投資信託を投資対象とする投資信託ごとの元本額)

米国国債7-10年ラダーファンド(為替ヘッジあり)(ラップ向け)	728,357,727円
MUKAM 米国国債7-10年ラダーファンド(為替ヘッジ70)(適格機関投資家限定)	3,140,471,418円
MUKAM 米国国債7-10年ラダーファンド(為替ヘッジ可変型)2016-03(適格機関投資家限定)	4,050,459,265円
合計	7,919,288,410円

- ③純資産総額が元本額を下回っており、その差額は592,419,762円です。

[お知らせ]

当社ホームページアドレス変更に伴う記載変更を行うため電子公告のアドレスを変更し、信託約款に所要の変更を行いました。
 (変更前(旧) <http://www.am.mufg.jp/> → 変更後(新) <https://www.am.mufg.jp/>)
 (2018年1月1日)

○損益の状況 (2017年9月20日~2018年3月19日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	84,786,442
受取利息	84,826,182
支払利息	△ 39,740
(B) 有価証券売買損益	△868,563,686
売買益	28,637,740
売買損	△897,201,426
(C) 保管費用等	△ 563,319
(D) 当期損益金(A+B+C)	△784,340,563
(E) 前期繰越損益金	65,882,259
(F) 追加信託差損益金	42,436,380
(G) 解約差損益金	83,602,162
(H) 計(D+E+F+G)	△592,419,762
次期繰越損益金(H)	△592,419,762

- (注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
 (注) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
 (注) (G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。